

38

お名前 むらた たけし 村田 健	性別 男性	満年齢 77歳	終戦時の年齢 12歳	現住所 中宇利
------------------------	----------	------------	---------------	------------

宇理国民学校6年生

- ① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。  
樹木じゆもくで半分ぐらいおおわれた、近くの農業用水池で水泳をしていた。
- ② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。  
帰宅中、国民学校高等科2年生の先輩せんぱいが、学校の農場に行き、学校でラジオ放送を聞き、私たちに話してくれた。
- ③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子  
父が帰ってくると思い、うれしかった。
- ④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

### 「父の戦死」

- 徴兵制度ちやうへい 召集令状しやうしじやう (赤紙まい1枚)、35歳出征しゆつせい、36歳死亡しぼう
  - ・昭和19年6月13日、父に令状が来た。役場の人に来て、上級生が赤紙だったと教えてくれた。父をとられると思って不安になった。
  - ・同月26日に出征。大ぜいの人に見送られた。私は新城駅まで見送った。広島県くれの呉海兵団に入隊した。
  - ・昭和19年11月3日、横須賀よこすかから出港。(豊橋の戦友が墓参りに来て知らせてくれた)
  - ・昭和20年4月24日、比島(フィリピン)クラーク付近で戦死した。戦死を通知する公報が21年4月か5月に来た。母とおばあさんが動転して泣いた。私も泣けてたまらなかった。
  - ・昭和22年7月頃、遺骨ごころが届いた。白木の箱だけだった。
  - ・昭和23年4月24日、葬儀そうぎが行われ、八名中から牧野彦二先生ひこじ、中島芥先生ひとしが来てくれた。

- 食糧難しよくりやうなん 昭和18～19年頃

校庭の半分ぐらいがサツマイモ畑になっていた。私も、つるはしで運動場を起こした覚えがある。農園があちこちに13カ所ぐらいあり、学校から曾根そねまでし尿しよをかついでいくのがとても大変だった。(運動場の南や東側ほうくうごうに防空壕ぼも掘った。)

米、麦、サツマイモ、大豆などが統制され、農家では自分の家で作ったものでも供出きやうしゆつしてしまうので、自由に食べられなくなった。そんなバカなど思った。

自分は6人兄弟の一番上だったので、田畑の仕事を一生けんめい手伝った。おじいさんに教えてもらいながら、あぜをぬったりした。下の弟といっしょに手伝ったが、水不足こまであぜぬりは大変だった。昭和19年はひどい日照りの年で、田植えができなくて困こまった。父が出征した6月13日に少し降ったが、その後7月

下旬まで降らなかった。田植えはそれまでできなかった。そのため、米のできがひどく悪かった。(P-68-参照)

○ 軍事教練

・竹槍訓練

5・6年生の男子は、竹やり訓練をした。

竹は直径5cm、長さ2mぐらい。先の部分は30cmぐらい鋭くとがらす。わら人形を突く練習、手榴弾を投げる練習をする。

・短棒投げ

直径4～5cm、長さ30～40cmぐらいの棒を手榴弾に見立てて、投げる練習をした。高学年は、手榴弾の模造品を投げることもあった。

○ 駐留部隊

・怒部隊

20年1月頃 中宇利の公会堂にいた。

弘法山(吉祥山の東にある山)に馬を放すため、アセビを除去する作業にかり出された。馬を山に放すというのが理由だった。

・桜部隊

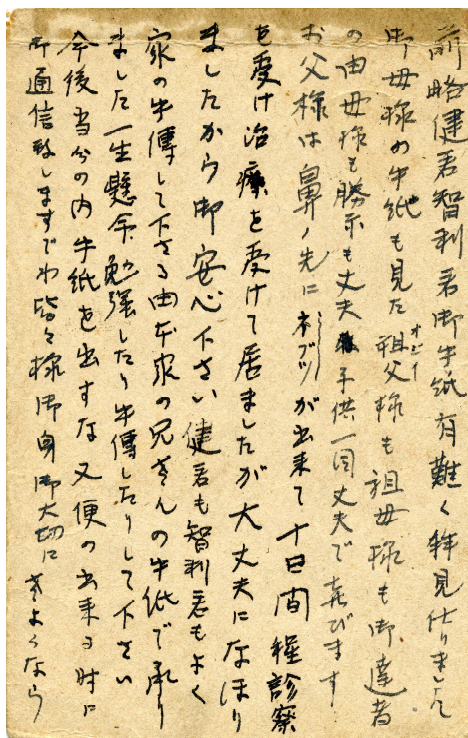
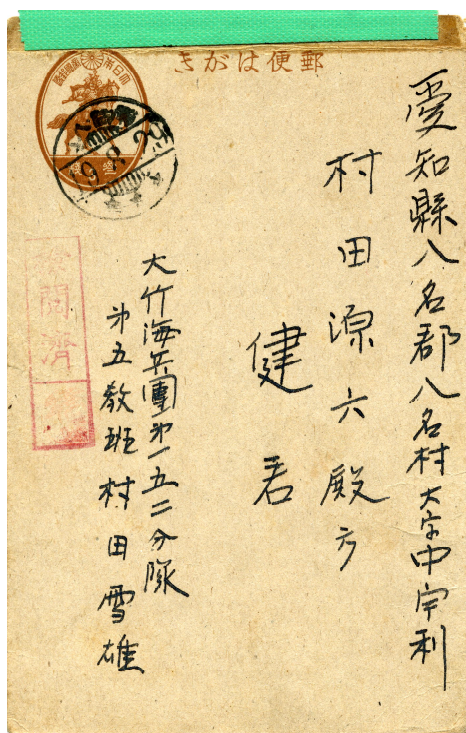
機動部隊で、自動車、装甲車などの車両を持っていた。

慈廣寺、延命寺、公会堂に分宿していた。

○ 空中戦

20年4月ごろ

雨生山の下に農園に、学校の5・6年生が種まきにいった時のこと。雨生山上空で艦載機の空中戦があった。日本軍は2機、アメリカ軍の数はそれより多かった。その後で、機銃の薬きょう\*1を友達と拾いに行った。10個以上拾った子もいた。



戦死されたお父さんからの軍事郵便  
戦局が悪くなったのか、当分の間手紙  
を出すなど書かれています。

\*1 鉄砲の発射薬をつめる容器のこと